

# 「高城プライド」 ～心と形を整える～

令和3年7月2日（金） NO12 文責 木下 文秋

## 「ありがとう」の対義語

言葉には対義語というものがあります。例えば「勝つ＝負ける」「泣く＝笑う」「暑い＝寒い」という具合です。それでは、「ありがとう」の対義語は何でしょうか？「ありがとう」とは「有り難し」（ありがたし）という言葉が語源です。「有り難し」とは「簡単ではない」とか「めったにない」「珍しい」ということを意味します。「難し」とは「難しい・困難」という字をあてることから想像がつくように「あることがむずかしい」ということになります。このことから「ありがとう」の反対は「あたりまえ」となるそうです。「あたりまえ」とは少し意外な気がします。皆さんは「ありがとう」という言葉はよく口にするはずですが、皆さんの周りにはどんな「あたりまえ」があるのでしょうか。朝起きたら食事ができていること。水道の蛇口をひねると水が出てくること。昼には給食が提供されること。すべて皆さんにとっては「あたりまえ」のことです。しかし、世の中には、このことが「あたりまえ」ではない人たちがいます。

毎日食べることに困っている人たちがいます。水道が整備されておらず、汚れた水を命がけで飲んでいる人もいます。給食が提供されるのは皆さんのご家族が給食費を支払っているからです。皆さんの日々の生活の裏側には、色々な人たちの支えや支援があることを忘れてはなりません。コロナ禍の中の総合大会が行われています。勝負事だから勝者がいれば敗者もいます。全力を尽くした結果であれば悔いも残らないでしょう。特に3年生の皆さんは、ここまで部活動を支えてくださった保護者の方々、顧問の先生方への感謝の思いを形にして欲しいと願います。練習試合の配車計画や、弁当作りなど3年間という月日の労力は計り知れません。その気持ちを行動に移すことが大事です。そして、部活動の最大の意義は「人間形成」です。もちろん技術の習得、体力作り等もありますが、「あいさつや返事ができること。集団のルールを守ること。感謝や思いやりの心を育むこと」それらのことを通して立派な中学生になることが保護者の一番の願いだったはずです。「勝つことこそが全て」なんて顧問の先生は存在しません。

人それぞれですが、部活動にピリオドを打つ時期が迫っています。今の自分があることは「あたりまえ」ではないことを理解して、1学期残りひと月を大切に過ごして欲しいと思います。